

昭和100年展

## 昭和初期

1926～1954

### 昭和の戦争と復興

この時期は、農業の改善やインフラ整備が進んだ一方、昭和6(1931)年の満州事変を発端に日中戦争、太平洋戦争と15年にわたる戦争へと向かう激動の時代でした。

野々市および周辺地域の人たちは、農業を基盤としつつ、隣接した都市(金沢や松任)へ出稼ぎに行くなどして労働の幅を広げました。商業や初期の工業化が進行し、特に繊維産業の興隆は、地域の雇用形態に大きな影響を与えました。

昭和14(1939)年に、末松廃寺跡が国指定史跡に指定されました。



昭和2(1927)年 大雪に埋もれる鶴来街道

1月末から2月にかけて断続的に大雪が降り、金沢測候所では約5.1mの降雪量が観測された。



昭和8(1933)年頃 富奥スイカの栽培

昭和恐慌にあえぐ中、昭和7(1932)年に富奥村は国の経済更生指定村となった。トマト(栗田新保)、スイカ(末松・清金)、養鯉(上林)などの新事業を推進し、農業経営改善に努めた。



昭和12(1937)年 皇軍大捷祝賀提灯行列

日中戦争で、12月13日に南京が陥落し、野々市で祝賀提灯行列が行われた。戦中は野々市からも多くの青年が応召されたほか、満蒙開拓青少年義勇隊に参加した青少年もいた。



昭和17(1942)年 青少年団の勤勞奉仕

手前に「松金鉄道」の線路、右側には「金沢紡織野々市工場」、その奥には昭和5(1930)年創業の「大北工業」の3本煙突が見える。昭和初期には、この他に「東和織物」「丸一紡績」「北陽繊維工業」「大日製作所」などの工場があった。